



横浜開港資料館
YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

小川雄一コレクション初公開

横浜の 外国商社と 舶来時計



2025年
9/13[土]
—12/21[日]

横浜開港資料館 (旧英国総領事館)
Yokohama Archives of History

開館時間 = 9:30 ~ 17:00 (券売は16:30まで)

休館日 = 月曜日 (祝日の場合は開館し、翌平日を休館)

観覧料 = 一般500円、小中学生 / 横浜市内在住65歳以上250円
毎週土曜日は高校生以下無料

主催 横浜開港資料館 (公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団)

共催 横浜市教育委員会

特別協力 小川雄一氏



横浜の 外国商社と 舶来時計

横浜開港資料館
特別公開

2025年 9/13[土]—12/21[日]

明治政府は、欧米の文化を取り入れた近代化、所謂「文明開化」を推し進めるために、明治5(1872)年に「改暦」を実施します。太陰暦を廃止し、太陽暦に改正し、不定時法から定時法へ転換しました。これによって人びとの時間の概念は大きく変化することとなり、洋式時計が普及します。特に外国商社が輸入する舶来時計は、国産製品が現れるまでの一時代を形成し、現在では「商館時計」と呼ばれます。

本展示では、令和6年度に寄贈された小川雄一コレクションの商館時計163点を含む関係資料から、時計の輸入の中心地が横浜であったこと、近代化を目指す明治日本に商館時計が与えた影響などを紹介します。



左：ホールクロック（コロン商会）／右上段：ファブル・プラント商会の時計
右下段左から：F. ヘロブ商会の時計と収納箱／〔仮装する人々〕DKSH ジャパン所蔵、当館寄託／シュオーブ・フレール商会のポスター

〔 展示構成 〕

プロローグ すべての祖父の時計から

I 文明開化と改暦

II 外国商社と商館時計

III スイスと日本

IIII DKSHジャパン所蔵写真アルバム・単体写真

V 品触から見る商館時計

VI 時計塔と文明開化

エピローグ 外国商社と商館時計のその後

〔 展覧会図録 〕

横浜開港資料館編「小川雄一コレクション初公開 横浜の外国商社と舶来時計」

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団 A4判・44頁（オールカラー）1,300円（税込）

〔 関連企画 〕

I 展示担当者による見どころ解説

9/15(月祝)・28(日)、10/5(日)・13(月祝)・26(日)、
11/3(月祝)・24(月振)、12/6(土)・20(土)・21(日)

会 場：横浜開港資料館 企画展示室

時 間：14:00～ 30分程度

参加費：無料（ただし観覧券が必要） **予約不要**

II 展示担当者による連続講座

①「横浜外国人居留地の外国商社」9/27(土) 14:00～15:30

②「商館時計の魅力と流通」10/11(土) 14:00～15:30

III まち歩き「横浜外国人居留地を歩く」

10/25(土) 13:30～16:00 (予定)

会 場：II①② 横浜市開港記念会館 6号室、III 関内地区

人 数：II①② 先着50名、III 先着20名

※定員に達し次第受付終了

参加費：各回1,000円

申込方法：外部サイトteketにて申込み
(右QRコード)

申込締切：III 10/10(金) 17時まで

※「連続講座」は有料アーカイブ配信を予定しております。(購入方法など詳細は追って当館HPでお知らせします)



小川雄一コレクション

令和7(2025)年2月に当館に寄贈された商館時計163個を含む時計関係資料245点からなり、小川雄一氏が約40年かけて収集した資料群。これらの資料を「小川雄一コレクション」とし、横浜外国人居留地及び横浜外国人社会の調査研究・展示公開を行ってきた当館の基盤となる資料群に厚みが増すことになりました。



横浜開港資料館
YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

〒231-0021 横浜市中区日本大通3
TEL. 045(201)2100
FAX. 045(201)2102
<http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

みなとみらい線 日本大通り駅
(4番出口)から徒歩2分
JR関内駅(南口)、市営地下鉄関内
駅から徒歩約15分
JR桜木町駅から市営バス「日本
大通り駅」下車徒歩1分

